

# さんむのふるさと散歩

No.8

今回は、成東山不動院長勝寺を紹介します。

◇ ◇ ◇

長勝寺は、成東下町の標高30m、「石塚山」（石塚の森・県指定天然記念物）中腹の岩石上に建てられています。

入母屋造りの瓦葺き、間口三間、奥行四間、欄干、

回廊をめぐらした朱塗りの懸崖造りの堂宇です。回廊からの眺めは素晴らしく、

九十九里低地をはじめ海岸線まで眺望できます。

寺伝の由来書・縁起（成東村石塚山不動尊縁起・成東村不動尊縁起・成東村石塚山不動明王略縁起）によれば、天平年間（729）

748年）に行基菩薩（668～749年・奈良時代の高僧）が不動尊像1軀を刻み、波切不動尊として奉安し、海運の鎮護としました。

ついで延暦年間（782～806年）に、弘法大師（774～835年、平安初期の高僧で真言宗の開祖、空海）が尊像を石塚山に移し、開眼供養をして東海鎮護の祈願をこめ無明山明王院長勝寺と号したが、信徒、不動院と略称し、いつしか不動院と公称されたと伝えられています。

実際の建立年代は不明ですが、元和4年（1618年）と記載された当院棟札が発見され、本堂建立は江戸時代初期までさかのぼると考えられます。

元禄13年（1700年）結城藩領になってから、元禄年間（1688～1703年）と明和3年（1766

748年）に行基菩薩（668～749年・奈良時代の高僧）が不動尊像1軀を刻み、波切不動尊として奉安し、海運の鎮護としました。ついで延暦年間（782～806年）に、弘法大師（774～835年、平安初期の高僧で真言宗の開祖、空海）が尊像を石塚山に移し、開眼供養をして東海鎮護の祈願をこめ無明山明王院長勝寺と号したが、信徒、不動院と略称し、いつしか不動院と公称されたと伝えられています。



「塚本衛銘泉碑」と「銘泉井戸」跡

6年）に改修が行われました。また明治45年・昭和30年に本堂改修、昭和49年に基礎石積工事が完成し、現在に至っています。

## 明治の文豪が集う「成東館」

明治34年、不動院直下に銘泉旅館「成東館」が開業、尾崎紅葉・伊藤左千夫等多くの文豪が滞在し、作品を

残しました。しかし、昭和5年頃に廃業、わずか30年足らずで歴史に幕を閉じています。

今も静かな佇まいを残す境内の本堂回廊からの眺望と、石碑「塚本衛銘泉碑」「銘泉井戸」の跡を残す「成東館」を訪ねてはいかがでしょう。



成東山不動院長勝寺本堂